

不登校特例校「西濃学園」 視察

2022年4月29日

岐阜県揖斐郡にある不登校特例校「西濃学園中学校・高等学校」を視察。不登校特例校とは文科省の指定を基に、不登校の生徒児童の実態に合わせて弾力的な教育課程を編成することができる学校のこと。現在全国で10自治体にあり、21校が指定されている。うち公立が12校、私立が9校。

西濃学園は、岐阜駅から車で一時間ほど北西に向かった山村地域にあり、全国で唯一の全寮制の不登校特例校で、中学の定員は70名ほど。中学・高校一貫で廃校になった校舎が利用されている。心理カウンセラーの常駐、体験活動の充実等、不登校生徒児童に対する手厚い指導に感銘をうけた。

不登校の現状

今我が国では、不登校の児童生徒(小中学生)数は約20万人。1000人に20.5人の割合。新型コロナ感染症が流行する以前の19年度でも18万人と、8年連続で増加。ここでいう「不登校」とは、何らかの要因・背景により年間30日以上欠席した子どもたち。不登校傾向にある子どもを含めるとその数は倍増するのではないともいわれている。

小・中学校における不登校の状況について

小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は196,127人(前年度181,272人)であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は20.5人(前年度18.8人)。不登校児童生徒数は8年連続で増加し、過去最多となっている。



現場から見てきた課題

- 不登校特例のノウハウ共有の課題
- 経営の課題
- スクールソーシャルワーカーの課題